

第2回(仮称)苫小牧市民ホール建設検討委員会 議事要旨

- 1 日 時 平成27年7月3日(金)16時15分
- 2 場 所 本庁舎4階 会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員5名
 - (2) 市関係者 市民生活部長ほか4名
 - (3) 報道関係者4社
 - (4) 北海道大学大学院工学研究院 オブザーバー2名
- 4 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 第1回(仮称)苫小牧市民ホール建設検討委員会の議事要旨
 - (3) 複合検討施設に関する自由議論
 - (4) 閉会

【主な議論】

委員長：市民の方々に足を運んでもらうためにどう新しいことをしていくべきかの議論は大切であると考えている。ただ単に公共施設を束ねるだけでなく、相乗効果を生み出し、新しい機能を追加するためにどのような目標を持って議論していくかが焦点となってくる。

委員：いくつかの公共施設を複合することでロビーをモールの場所の活用ができるのではないかと考えている。

委員：個人情報に注意しながら、市民へ発信していく方法も検討することが重要ではないかと考えている。より活動を身近に考えてもらうことが大切になってくる。

委員長：情報の取り扱いは非常に重要な議論である。いかにその情報を拡散して、実際の人々の出会いや体験の共有ができる機会へと繋げていくかが、現代には重要なことであると考えている。

委員：現市民会館では、何か目的のコンサート等がないと人は来ない。例えばコンビニ、ATM等があると良いと思う。

委員長：複合化のメリットはA+Bがあって、Aを目的に来た人がBにも立ち寄りやすいことだと思うが、それには限界があると思っている。一番大事なことは、無目的な人々が立ち寄れる場所になることではないかと思う。

委員：こういった施設を考える上で、まずは見る側の立場でどういった利便性(アクセシビリティ)があるかを考えていくことになる。そのような中で、重要なのが交通手段だと思っている。

委員長：交通の利便性と同時に、非常に重要だと思ったのが、賑わいについてである。

市が実施した市民アンケートの一部を報告。
(内容は別紙のとおり。)

委員長：Q3で余暇活動への取り組みというのがあるが、回答者の約4割が「行っていない」という回答をしているが、実際に委員皆さんの周りを見てどうだろうか。

委員：1人でいくつか掛け持ちをされている方が多いと思う。いつもボランティア活動等は同じ顔ぶれであることが多い。

委員：アンケートの回答者の中には、時間的余裕がないという他に金銭等の経済的余裕がないという人等もいるのではないか。

委員長：本日は議論やアンケート結果をとおして、そもそも公共施設を利用していない方やユーザー層やニーズが異なる多様な人々がいることを確認できたことは良かったと思っている。アンケートに関しては単純集計に加えて、属性等を加えたクロス集計をして適宜、御紹介していきたいと思う。

委員：追加で意見を言いたい。施設もそうだが、見る時間帯や活動する時間帯にも注目していきたい。

委員長：時間については具体的な施設運営に関わる重要な点であると思う。

委員：アウトリーチも事業として良いと思う。また、苫小牧市は以前から、文化・芸術を嗜もうとする気質があまりない。今でこそ集客できるような出し物もあるが、それはリピーターが出てきたからであると考えている。

委員長：今日の議論の中では「アクセシビリティ」や「アウトリーチ」等のいくつかのキーワードが出てきた。今後、今日のキーワードを整理して一度お話ししたいと思う。まずは市民アンケートについてだが、実施した時点では複合化が前提ではない。ここで我々が認識しておかなければいけないのが、現時点とアンケートを実施した時点では全く状況が異なっているということである。今回考えるのは複合施設であり、ホールが主であって、その他の複合施設が従というわけではないことを強調しておきたい。これまでの委員会ではホールが主で話されることも多かったが、そういった主従関係はないということを改めて確認しておきたい。